

提案主題	芯の通った学校組織の活用推進に向けて取り組む学校体制の構築における教頭としての役割
協議の柱	校長の学校経営・芯の通った学校組織の活用推進に向けての教頭の具体的役割は、どうあればよいのか。

提言者 中津市立中津中学校 安東浩子

1 質 疑

- (1) Q 授業改善において、研究主任と教務主任の具体的な連携は？
 A セルフチェックシートを使ったり、定期テストに活用問題を取り入れたりしているが、企画は研究主任、提案は教務主任と日々の取り組みから連携させている。

2 協 議

- (1) 教頭の具体的なミッション
 「強み」「よさ」をいかに。 主任制度を整える。 分掌ごとの目標を決める。
 校長のビジョンに合ったチームづくりを行い、そのリーダーにベテラン・中堅教員を配置する。
 分掌リーダーが、分掌チームの一人ひとりに役割を持たせて…というところまでいかず、リーダーがひとりで担ってしまう。
- (2) 会議の持ち方
 運営委員会の議題にA・B・Cのランクづけをして精選した形にしていく。
 職員一人ひとりの考えを吸い上げるために、拡大運営委員会を開催する。
 運営委員会の内容を周知徹底させるために、モニターをつかう。
 運営委員会に分掌リーダーを参加させたら、意識が高まってきた。
 学年部会・教科部会を充実させる。
- (3) 若手教員の育成
 若手教員とベテラン教員を組ませる。 ベテラン教員が授業をやってみせる。
 年齢構成の二極化。

3 指導助言

- (1) 教職員が元気だと子どもが育つ。そのためには、悩みや課題を共有していく必要があり、個での対応には限界があるので、組織が必要となってくる。これからの学校の組織は、教務主任を核とし、教頭はサポートに徹する。ミドルリーダーや若手の育成が組織づくりにつながる。
- (2) 教頭のミッションはあいまいではあるが、学校の中のすきまを埋めていくこと。教務主任が学級担任の場合も、学校が組織として活性化するために足りないところを埋めていくことが大事。組織という形はできつつあるが、形からコミュニケーションを大切に血の通った組織づくりが大切である。